MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２３．１．１２　発行元
第 436 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

かつての名作・傑作　その3

４２６号に続いて１９７０年代～１９８０年代にかけての作品の中で、私が数冊しか読んでいない作家の傑作、名作と思われる作品を紹介している。当時はそれなりに話題になった本ばかりである。

私の本棚にある本の紹介

大邸宅ならともかく、今の日本の並みの住宅に置ける本の数はどれぐらいなのだろうか。私の家では数千冊が限度。それでも毎回、本探しでは苦労する。「確かこの辺にあったはずだ」と思った本がなかなか出てこない。最後の最後までみつからないとガックリ来る。もうこの齢になると広い家に移ろうなどとは思わないし…。

今回も私が大学生から就職したばかりの頃に読んだ本。４０年以上前に読んだものなので、内容もほとんど忘れている。あらすじを読んで解説を読んで、最初の数十ページを読んで…イメージを作り直して、この原稿を書き始める。特徴をうまく伝えられるとよいのだが。

小林信彦『神野推理氏の華麗な冒険』

１９７７年平凡社。私の手元にあるのは１９８１年の新潮文庫版。読書の達人・小林信彦氏ならではのパロディ・連作ミステリ。短編集なのだが、題名を読んだだけで笑いが浮かぶ。『ハムレットには早過ぎる』『さらば愛しきヒモよ』『コザのいざこざ』『〈降りられんと急行〉の殺人』『災厄の島』『粗忽な〈恍惚〉』『抗争の死角』『幻影の城で』『殺意の片道切符』『はなれわざ』『超Ｂ級の事件』『神野推理最後の事件』と並べてみると、ミステリマニアなら誰しもが読みたくなるというもの。探偵役は三十代後半の神野推理。元コント作家？？らしい。母親のおかげで食うには困らない生活。ワトソン役を務めるのが中学以来の友人でテレビ・ディレクターの星川夏彦。題名とは違って、本格ミステリらしい謎解き。

第一話。神野マンションでの密室殺人事件。部屋の中でドミニコ神父が背中から短刀で刺されて死亡。鍵がかかり、チェーンロックがかけられていた。捜査に当たるのは鬼面警部と旦那刑事。神野の推理は…。というのは前半の導入部分だった。続いて同じマンションに住む田能久という人物から、眠ろうとすると毎日悲しげな声が聞こえてくるという相談を受ける。神野の鮮やかな推理の結果…。本書の続編が『超人探偵』。

日下圭介『蝶たちは今…』

１９７５年講談社。江戸川乱歩賞受賞作品。私の手元にあるのは１９７８年の講談社文庫。日下の作品は何冊か読んでいるけれども、いずれもサスペンス仕立てで、本格謎解きの印象は薄い。デビュー作になる本書が最も構成がしっかりしていて、ミステリとしての仕上がりが良いと感じる。

最初のプロローグにあたる部分に別荘での心中事件が取り上げられ、続いて柳原英会話学院理事長の柳原美栄子の元に届いた葉書の話が出てくる。裏面に文字はなく、ただ黒い蝶の版画の絵があるのみ…。

本文に入ると、東京に住む大学生の嘉川康雄が友人の芹沢拓也と飛騨の温泉に旅行に行く場面になる。宿に着いた時、自分のバックがすり替えられていることに気付く。中を開けてみると妹尾秀人宛ての手紙。差出人は蓮田直子。旅行から帰るとバックを返してほしいとの手紙が届く。康雄がその家を訪ねると相手の女性は３年前に亡くなっていることが判明。仕方なく男性の方に転送すると、その人は１７年前に死んでいた。死者からの手紙、ここから謎は展開していく。その後いろんな蝶の名前が登場し、幽霊からの電話が…。

斎藤澪『この子の七つのお祝いに』

１９８１年角川書店。第一回横溝正史賞受賞作品。当時、新しい賞が創設され大いに期待したものだった。表紙絵は着物姿の人形でいかにも「横溝正史風」。おどろおどろしい世界が展開されるのかと想像したが、中身はちょっと違っていた。帯には「凄まじい女の怨念を情感豊かに描く」と記されている。でも、現代ものミステリのストーリー運びである。

第一章は昭和二十九年に亡くなった母親と幼い「私」＝麻矢の回想シーンで、母親が亡くなるまでの経緯が記されている。第二章の出だしは殺人現場の描写で、警察が到着し、最初に見た状況が説明されている。そのあとで、ルポライターの母田耕一が登場し、殺された女性が政界の黒幕である秦一毅関連であることが明らかにされていく。黒幕の後には女占い師が控えており、表に出ない占い師・青架を追い求める母田は元お手伝いの女性を糸口にしようと考えていたのである。ここまででに少し時間がかかり、読者は先が見えない焦燥感みたいな気持ちになる。ここから先は、警察の捜査活動と母田、そして関連人物たちの間でのやりとりになっていく。「とおりゃんせ」の効果はまあ中ぐらいと言ったところか。作品としてはよくまとまっている。